

教育目標

新潟市立高志中等教育学校 学校だより

志の涵養

きらめ



教育理念

自律と互敬

煌き

令和4年3月4日発行

第87号

第8回卒業証書授与式

令和3年3月3日（木曜）、第8回卒業証書授与式が行われました。

前日には在校生が教室や廊下を華やかに飾りつけたり、6年間の歩みをリーフレットにしてまとめたりして、感謝の心を表しました。

当日は新型コロナウイルス感染症対策の制限の中、保護者と職員が会場から、また、在校生はリモートで繋がれた各教室から卒業生の門出を祝いました。



校長式辞

春風や 闘志抱きて 丘に立つ 高浜虚子

春の嵐の中にあっても、木々は潤い、桜のつぼみは確かに膨みを増していきます。本日、このよき日に、新潟市立高志中等教育学校第八期生の卒業式を挙行し、門出を祝うことができることを心からうれしく思います。

みなさんは、新型コロナウイルス感染拡大により様々な活動が制限される中、学校生活のあらゆる場面において、後輩たちの模範となり、確かなリーダーシップを発揮してくれました。

かねてから懸案であったカーディガンの着用等服装に係る校則の見直しに着手するとともに、文化芸術発表会では、生徒やクラスの個性、創造性を発揮できる場としての発表を工夫し、新たな可能性を切り開いてくれました。また、先輩から引き継いだSDGsの活動を具体的に展開し、地域、世界、未来に目を向けた活動を全校体制で進める基盤を確かなものにしました。

2030年の世界のかたちを示すSDGsは、みなさん一人一人が、これからも向かい合うべき課題であり、生き方を模索するきっかけとなるものでもあります。

しかしながら、みなさんが、生きていく時代は、SDGsのように何を目指すかだけでなく、どのように生きるかという人生のスタイルそのものについても新たな枠組みが必要となるでしょう。

ロンドン・ビジネススクールのリンダ・グラットン教授は、世界的な少子高齢化時代の到来を予見し、著書『LIFE SHIFT 100年時代の行動戦略』の中で、これまでの教育・仕事・引退という3ステージの人生から、年齢とステージの関係がなくなり、キャリアが多様化するマルチステージの人生へとシフトしていくと言っています。

マルチステージの人生では、異なる複数の仕事を同時にこなしたり、組織に属さず独立した立場で活動したり、仕事から離れて学び直したり、自分探しをしたりするなどを繰り返しながら、キャリアを重ねていく、多様で柔軟な働き方、生き方をしていきます。

こうした生き方をしていく上で、大切になる三つの資産があると、彼女は言います。

一つは、収入を得るためのスキルと知識、仕事仲間からの評判などを含む生産性資産、もう一つは、家族・友人との良好な人間関係、肉体的精神的な健康という活力資産、そして、社会の変化に対応し、新しいステージへと進む意思と能力となる変身資産の3つです。

これら3つの資産を育み、使いながら、それぞれが自分自身の物語、自らのキャリアを築くストーリーを描き、実践していくのです。そのためには、何が社会にとって必要か、自分自身にとって必要かを問い、探究していくこと、そして、様々な人たちとの豊かな関係を築いていくことが必要です。

現在、すでに多くの若者たちが、大きな企業に就職することよりも、自ら起業し、多様なキャリアを築いていく生き方を始めています。社会も、そうした挑戦を見守り、支援していく流れができつつあります。

みなさんには、ぜひ、次のステージでさらに学び、関係を広げ、深め、力を蓄え、社会に新たな価値を生み出していくような生き方をしてほしいと思います。

保護者の皆様、本日は誠におめでとうございます。成長著しい我が子の体と心、そして、コロナ禍による日常の変化、生徒以上に、不安と焦りの日々があったかと思えます。そんな中であって我が子に寄り添い、見守り続けた保護者のみなさまのご労苦と愛情に心からの敬意と感謝の気持ちをお伝えいたします。

どうか今後とも、ご家族の温かな愛情をもって支え、見守りくださいますようお願い申し上げます。ご縁をいただきました私どもも、精一杯の声援を送ってまいりますことをお約束いたします。

風立ちぬ いざ、生きめやも

戦争の足音が近づく昭和十三年、堀辰雄が発表した『風立ちぬ』という小説の冒頭、主人公が軽井沢の高原で恋人と過ごすひととき、風が吹き、恋人の描きかけの画架を倒します。この風は、結核という当時不治の病と闘う二人の運命を象徴するものであり、この一節は、そうした運命にあらがい、生きることで幸福をつかみ取ろうとする主人公の思いを表したものでもあります。原典であるフランスの詩人ヴァレリーの一節は、「風が吹いた。生きねばならない」という強い生への意思を示すものでしたが、堀辰雄は、そのようには訳していません。これを誤訳とする研究者もいますが、一方で、死と生を同等に見た生き抜く覚悟を示すものと評する研究者もいます。この作品の末尾、遠くで風のざわめきが聞こえ、足下では小さな風が枯れ葉を踊らせます。大きな戦争の予感と日々の生活での心のざわめき、私たちは、いつも大きな世界と半径5mの日常との狭間で生きています。しかし、それらは決して別なものではなく、確実につながっており、あるとき突如として私たちの人生に大きくのしかかってきます。私たちは、常に、風の中で、風と向かい合って生きてかなくてはなりません。世界と向かい合う覚悟、自分の人生と世界を、よりよくしていくという覚悟、100年の人生を生き抜くという覚悟が必要なのです。

『小説 上杉鷹山』を世に出した作家の童門冬二さんの生活信条は、「起承転々」だといいます。「起承転結」ではありません。九十四歳の彼は言います。「自分の人生は常に未完成で、学ぶことがまだある。」「転々」とは、単に転がるというのではなく、最期まで緊張して生き抜くという意味だそうです。「学びは人生に果実をもたらす種でしょう。」と彼は言います。今、みなさんに授与した卒業証書は、この六年間、ここで確かに学んだ証であるとともに、自らの志をもち、さらに学び続けていくという決意の証でもあると信じています。

今も強い風が吹き荒れています。どんな風が吹こうとも、みなさん一人一人が、よりよい未来の姿を思い描き、その志をもとに、学び続け、仲間と手を取り、世界とかかわり、あなた自身の物語を力強く紡いでいってください。

旅立つ九十二名の若人が無限の可能性と高き志を抱き、風吹きすさぶ大空を力強く、はばたき渡っていくことを祈念して、式辞といたします。

令和四年三月三日

新潟市立高志中等教育学校長 上野昌弘

祝！表彰

- ・新潟市教育委員会卒業生表彰 6年生 1名
- ・皆勤賞（6年間を通して、欠席、遅刻、早退することなく出席しました！） 6年生 4名
- ・新大全国書初大会 新潟大学長賞 5年生 1名【右の作品】
- ・新潟県競書大会 B S N新潟放送賞 5年生 1名
準特選 6年生 1名
5年生 1名
4年生 3名
- ・国際高校生選抜書展 入選 5年生 2名
- ・全国高等学校グローバル探究オンライン発表会
金賞・探究成果発表委員会特別賞 S D G s 推進委員会
- ・高等学校英語スピーチコンテスト新潟県大会 4位 5年生 1名
- ・北信越高等学校新人陸上競技大会 七種競技 2位 4年生 1名
- ・新潟県高等学校秋季陸上競技大会 男子200M 5位 4年生 1名
男子400M 4位 5年生 1名
男子800M 6位 5年生 1名
- ・北信越高等学校選手権水泳競技大会 男子100M自由形 4位 5年生 1名
男子200M自由形 7位 5年生 1名

